

第2回ふれあい懇談会懇談要旨

- 開催日時 令和元年11月23日（土） 14時～16時
- 開催場所 新木近隣センター
- 参加者 30名
- 市出席者 星野市長、廣瀬総務部長、渡辺企画財政部長、柏木市民生活部長、
増田環境経済部長、古谷建設部長、伊藤都市部長、他15人

■懇談要旨

市民：10月19日の台風の際の防災無線で避難勧告が出されていきました。当時は風が強く防災無線の内容は聞き取れませんでした。こういった状況で避難地域となっている自治会長等に連絡をしなかったのは、なぜでしょうか。私は、新木近隣センターの管理運営を行っておりますが、その際に避難所になったとの指示が我孫子市からありませんでした。また、避難解除の後の閉鎖指示もなく、使用していた備品もそのまま職員は帰ってしまいました。また、新木近隣センターは福祉避難所なのですが、本来の避難所である新木小学校ではなく、近隣センターにした理由をお聞かせください。それと、ふさの風近隣センターに避難した方が、布佐は利根川に近いので、水害が怖いから新木近隣センターに移ったという人もおりました。避難者は90名いたということですが、ある候補者のチラシでは朝の5時時点で71名と掲載されておりました。どこの地域、どこの自治会から避難されたのか、お聞きしたい。見守りネットワークという組織もある中で、参考までに教えていただきたいと思えます。

もう一点ですが、これは市にお願いすることが妥当かはわかりませんが、新木に建設された創価学会建物について、建設する際に新木団地の自治会で説明会が行われましたが、その際、非常時には地元へ便宜を図りたいという話がありました。今後については、市と相談しながら活用していきたいと考えておりましたので、市としてどのような見解であるかお聞きしたいと思えます。

市民生活部長：まず、近隣センターの避難所開設については、自治会長に直接連絡はいたしません。避難所として活用する際の連絡がなかったことについては、市民活動支援課の担当職員に確認いたします。備品をかたづけなかった事について

は、大変申し訳ございませんでした。新木地区の避難所は近隣センターを、自主避難場所として指定していただきましたので、新木小学校の体育館の冷たい床よりも、暖かい場所で安心していただけるように、新木近隣センターといたしました。新木近隣センターの最大の避難者は97名で75歳以上の方は16名でした。布佐からの避難者は、湖北台から新木に移動しました。最終的に新木の近隣センターの避難者は1名となったので、職員が自宅までお送りいたしました。

創価学会との話は、まだ、災害協定を締結していることではありませんので、今後、創価学会と話し合いをしてまいります。

市民：避難された方の住所等は教えていただけないのでしょうか。住所が無理であれば、例えば、どの地区の方であるか、人数は何人だったのか教えていただきたい。

市民生活部長：住所から各地区は分かると思いますので、後ほど資料をお出ししたいと思います。

市長：今回は台風15号、19号、10月25日の大雨については、それぞれの避難勧告が違いまして、市から出している避難勧告も土砂災害と手賀沼が氾濫するのではないかという避難勧告と利根川が氾濫するのではないかという避難勧告と、それぞれ違います。今回は、全て混ぜこぜに考えている方が多かったようです。そこについては、市としては反省材料として、市民の皆様が分かりやすいように対応を考えてまいります。近隣センターふさの風は崖崩れを気にするような立地条件ではありません。台風が来る場合は、利根川の下流事務所と連絡を取り合い、手賀沼の水位を30cm下げて対応しました。市としては、埼玉県の高橋・野田の芽吹橋、取手の水位が避難の目安としております。高橋から我孫子までの到達時間は6時間あります、野田の芽吹橋からは2時間ですので、避難対応する時間はあります。

今後は、さまざまな情報発信をする中で工夫をさせていただきます。今回は、「新木近隣センターを自主避難場所として早めに開設してほしい。」と、新木野の高齢者の方からも要望がございました。なお、避難所の跡片付けを怠っていた点につきましては、大変申し訳ございませんでした。今回、近隣センターを避難所にしたのは、東日本大震災の教訓を活かし、近隣センターほどの便利な施設を避

難所にしないのはもったいないということからです。まずは、近隣センターを活用して、それ以上の人数がくるのであれば、学校の体育館を次の優先順位で開けていこうと思います。和室があってエアコンが完備されているわけですから。

創価学会の件につきましては、公明党さんとも話をしていきたいと思いますので、お時間をください。

市民：自主避難所の開設というメールがありましたが、私の携帯に入ってくる情報などを検証しました。その中で、自主避難と避難勧告はどう違うのかということです。夜間の受付は、危険ですので受け付けません。それから、自主避難場所の避難所が福祉避難所になったら、退所していただきますというメールはおかしい。また、土砂災害も原則は雨であります。雨が長く降ればそれだけ地盤もゆるくなり、土砂災害に繋がると思います。よって、今回の災害メールの内容を見直してほしいと思います。また、13日の日曜日に台風19号避難勧告発令ということで、ここで初めて水害という言葉がでてくるわけです。その中で、新木近隣センターは避難所であると防災マップに載っていなかった。急に避難場所が変わったので、困惑された方もいらっしゃいました。今後については、こういったところを再度検証し、修正していただきたい。

市民生活部長：ご指摘の部分はきちんと対応していきたいと思います。新木近隣センターは、避難所になることを防災マップの改定の際に掲載していきます。

今後、法律も変わって、ハザードマップも変えなければならない状況が出てくると思いますので、ご意見等は反映させていただきます。

市民：ちなみに、私の家の屋根瓦が飛んで、向かいの家の窓ガラスを割ってしまいました。そこで調べてみると、管理をしっかりしていれば、責任を負わないとありました。謝罪をするなどしてコミュニケーションを語るなどしました。やはり、地域の方との話し合いは重要であり、そういった横の繋がりが必要と考えておりますので、市の方でも情報の共有を図れるような組織体制づくりをお願いいたします。

市民：湖北特別支援学校が福祉避難所として締結しましたが、健常者が入ってくる場合、福祉避難所は障害がある方が中心になるかと思うのですが、その際に細かな細目が必要になると思います。湖北特別支援学校は、元は湖北高校ですので、

体育館に多くの人が入れるようになりますので、うまく運用を考えていただければと思います。2020年オリパラについては、我孫子市出身で活躍する小中学生がおりますので、この場を借りて紹介したいと思います。久寺家中出身の子は、サッカーの知的障害の世界選手権の代表になっております。白山中の卒業生の子は400m日本ランキングトップで、2年前にドバイの世界カップにも出場しております。湖北特別支援学校出身の子は、スポーツ賞をいただいております。日本ランキング2位です。パラリンピックの代表もありえますので、ぜひ、市をあげて応援してください。

市長：避難所に必要な人数が多くなれば、体育館等の活用が広がると思います。今回については、先ほどご説明したとおり、近隣センター規模で大丈夫だと思っております。お話があったとおり、高校の体育は大きいので、頼りにはさせていただこうと思っております。ただ、我孫子高校につきましては、手賀沼に近いことから、水害の際には開放しづらいと思います。湖北の特別支援学校は安全ですので、ご協力いただければと思っております。来年のオリパラについては、今紹介した人以外にも、久寺家中の車いすテニスの舩水さんや白山中出身の今井選手、この方は車いすラグビー選手です。代表確定した場合には、広報、ホームページにて皆様にお知らせしていきたいですし、学校関連チケットで子供たち用のチケットがまとまってきていますので、学校ごとに割り振りをさせていただき、子供達にもオリンピック・パラリンピックを体験してほしいと思っております。皆様も応援をよろしく願いいたします。先ほどの細目の件につきましては、検討させていただきます。

市民：避難所の正式名称（災害避難所名）、配置した職員数、開設・閉鎖の時間は何時でしょうか。また、避難者はどれくらい滞在したのかなど教えてほしい。

また、食料等を持ち込んだのかどうか。またどれくらい使用したのか。

そして、その職員数で避難運営が出来たのかどうか。その点を教えていただきたいと思っております。

市民生活部長：新木近隣センターの避難開設時間は、洪水の避難勧告をだしました10月13日、日曜日の夜中0時30分になります。避難所の閉鎖につきましては、10月13日の19時30分です。配置した職員は3人となっております、

健康状態を確認する保健師はすべての避難所を回ったとのこと。また、簡易的な食料としては、パンと毛布を配布させていただきました。正式名称については、本来避難所としては新木小学校ですが、今回は、新木近隣センターに避難してくるということになったので自主避難所です。災害が大きくなって、福祉避難所を開設しなければならない状態になった場合、福祉避難所となります。

市民：最後の質問の職員はしっかり運営できたのでしょうか。また、反省会などは行われたと思いますが、その点はどうか。

市民生活部長：今回の災害の総括した文書の取りまとめが、このふれあい懇談会の開催3日前です。今後、避難所班や本部などから反省を取りまとめて、計画変更やハザードマップ内容の変更の際に反映させていただきたいと思います。また、総括の内容については、ホームページにも掲載させていただきましたし、新木近隣センターにも配置しております。なお、台風15号の方につきましては、現在支援策を行っていて今後も届け出が出てくる可能性がありますので、総括出来ておりません。台風19号と10月25日の大雨の部分となりますので、ご了承下さい。

市民：今回、避難者カードを市役所の方で用意しておりませんでした。近隣センターに避難してきた方は、メモ用紙に書いたようです。新木小学校の体育館をどこの地区が使用するか割り振り表やペットの対応についてなど、事前にそのような物を作っておくべきであると考えております。そういった点の対応が今回の我孫子市は遅かったと思います。取手市等は、何も連絡しなくても携帯電話に情報が入ってきました。早め早めの情報提供をお願いしたい。台風時に災害対策会議などを設置して対応をしたのか。お聞きしたい。また、我孫子市に電話を掛けたが繋がらなかった。

市民生活部長：10日に配置検討会議を開催しました。11日に災害警戒本部、12日には災害対策本部を立ち上げました。避難命令については、12時に避難準備・高齢者等避難開始を発令し、15時には土砂災害の避難勧告、夜中の0時30分に栗橋の水位が上がったので、洪水に関する避難勧告と垂直避難を呼びかけました。もっと水位が上がれば、避難指示を行う事になります。避難勧告が夜中になったことから、今後は早めの対応を心掛けてまいります。皆様におかれま

しては、避難所運営訓練もありますので、今後は、参加していただきたいと思います。避難者カードの不足は、他の避難場所では用意しておりましたので、当時の担当職員に事情を聞いてみたいと思います。

市民：新木地区においては高齢者が多い中で、情報を察知するにはメールなど、パソコンや携帯の操作が出来ない方が多いので、対策を検討していただきたいと思います。何か良い方法を考えてほしいと思います。あと、市民バスについては、新木地区に通れないところがあるという事であれば、マイクロバス等、小型の車での運営を検討してほしいです。

市民生活部長：メール以外では、お電話でのフリーダイヤルで情報を取得することができます。無料電話ですので、0120-031-676 にかけていただきますと、防災無線で流した内容が聞けます。こういったものをご活用いただければと思います。

建設部長：あびバスについては、毎回このふれあい懇談会でルートについてのご質問があります。ルートにつきましては、利用者の皆様にアンケートに回答していただいてルートを決めております。それから、マイクロバスやデマンドバスなどの交通手段があります。新木地区におかれましては、外出支援として強く言われております。そういった事も検討しながら、ルートの変更やバスの本数などを決めております。

交通課長：市民バスルートの変更などについては、アンケートをとりながら決めてきました。小型バスにつきましては、マイクロバスですとステップがついて、乗りにくいところがございますので、今はバリアフリー化されているバスを運行しております。今後もアンケートにより皆様のご意見を頂戴しまして、より良いルートを決めさせていただきます。

市民：25日の大雨の時ですが、南新木野2丁目の調整池が満水になっていました。もう少し降ったら、溢れそうでした。そういったことも把握していただきたい。またそういった状況で、避難勧告解除と避難所閉鎖の放送が9時10分にありました。その間に避難していた方々は、夜中に帰ったのでしょうか。それとも、翌朝に帰られたのでしょうか。こういった状況ですと、土砂災害の恐れもあると思いますので、もう少し解除を待ってみてはどうかなど、対応が考えられます。

市民生活部長： 25日12:30に避難勧告を放送。最高で10名が避難していましたが、解除をまたずに自主的に家に帰えられた方が多くいました。夜21:10に避難勧告解除をした時点で、避難所の閉鎖もお知らせしました。

市民：避難所運営訓練をしておきながら、配備されていなかった。市の対応が遅かった。

市民生活部長：これにつきましては、土砂災害の警戒で避難勧告をさせていただいたのが、12時30分で、解除が夜の21時10分でした。この間に避難者の方ですが、湖北台近隣センターに6名、近隣センターふさの風に4名で合計10名でしたが、土砂災害警戒情報の解除を行う前にほとんどの方がお家に帰られました。解除の時には1名だけでしたが、その方は職員がお家までお送りしました。

市民：避難所運営訓練をした際に間仕切り等の設置方法を学びましたが、今回はそのようなものが設置されておりませんでした。せっかく訓練をしておきながら、配備されていなかったという実態はどうお考えでしょうか。こういった訓練をしてきた中で、市の対応が時間差で遅れてくるという事は、基本的に順番が違うと思います。私たちの感覚では自助、共助、公助ですが、市の感覚として公助、共助、自助だと思うのですね。そういった中で、一つ一つ対策を練ってほしいと考えております。

市民生活部長：今回の3回の災害については、いろんな問題が出てきました。一つ一つ検証をしまして、対策を練っていきたいと考えております。この度は、新木地区の皆様大変ご迷惑をおかけいたしました。他の避難所では、まったくこのような事がなかったもので、大変申し訳ございませんでした。

市民：下新木踏切道の改良事業について、未取得事業用地について、踏切部分が大きく取得されている中で、このような状況になっている説明していただきたい。

建設部長：未取得場所については、以前、千葉県と我孫子市の事業でこの地権者から2回ほど、土地の提供をしていただいております。子供たちの通学路で事故も起きているので、拡幅にご協力をお願いしたいとご説明しているのですが、3回目の提供は出来ないとの事です。また、お住いになっている土地が細長いので、用地を提供しますと地権者が住めなくなるというところもあります。この点につきましては、代替地を用意するなどいろんな手法がありますが、まず交渉にのっ

てくれないというところです。これは地権者の方が悪いのではなく、2度も別件で市に協力してくださっております。踏切場所も広がり交通量も増えてくると思いますので、そういったところを丁寧に説明しまして、市としては、根気強く対応してまいります。

市民：吾妻台の養護学校から市民体育館に行く道路が荒れています。危険ですので、補修してほしいと思います。以前お話をして、一部は補修してもらっていますが、まだ荒れている場所があり、予算も厳しい中であると思いますが、自転車で通る時に危険ですので、未補修部分をお願いします。

道路課長：新木地区だけでなく、市内全域でこういった要望はございます。また予算の関係もあることはご理解いただいているようですので、再度、現場を確認して対応していきます。傷み具合を見た中で、検討させていただきます。全市的に傷みが出ている場所を順次補修しております。皆様には、ご迷惑おかけいたしますが、よろしくご理解いただきたいと思います。

市民：スタンプラリー2019では、新木地区が載っておりません。我孫子市の西側と布佐の近辺しかないのでは、どういう主旨で掲載しているのでしょうか。また、中間の区域や新木地区が載っていません。どういう主旨で、また、地区はどのように選んでいるのか。お聞きしたい。

環境経済部長：スタンプラリーは、市内全域で行われる年間でのイベントに参加していただきたいということで行っております。内容につきましては、商工会の方で調整させていただいておりますので、新木地区も含めて検討させていただきます。湖北地区では産業まつりなどがありましたので、大きなイベントや実行委員会等がありましたら、また、新木でもイベント等があれば掲載されると思いますので、ご意見の方は商工会に伝えます。

市民：下新木踏切道の北側356号線側のビル側を工事して、そこだけでも取得すると、ほぼ道路拡幅になるのではないかと思います。また、その際に電柱は移設されるのでしょうか。

建設部長：こちらも、同じです。テナントとして貸し出しているようですが、地権者の方がダメであると言っております。用地交渉が成立すれば、電柱も移設になります。

交通課主幹：関係地権者は2名おりますが、1名は農業を行っており、農業に支障が出るという事と家庭の事情によるものがあるということで、用地買収は難航しております。テナントをやられている方につきましては、以前にもこの踏切道が二間道路であった時に用地買収に協力してくださっており、その後に国道356号線の方も用地買収されているということで、今回で3回目になるということです。一度取り壊し、再度立て直すことでお願いしたのですが、全て補償費でまかなう事が出来ません。例えば、10年の耐用年数の建物の場合5年過ぎていけば、残りの5年分が現在の価格として算定され、その補償費で立て直すこととなります。ただ、どうしてもご自分で資金を持ち出して立て直す場合もありますので、その辺の問題とテナントさんに迷惑はかけられないという事で難航しております。

今年度と来年度でJR東日本にお願いしまして、下新木踏切の本体工事にはいらさせていただきますので、その間に何らかの方法を考えていきたいと思えます。

市民：文化交流拠点施設を水の館ではなく、新木に建設すれば、地域活性化になるのではないのでしょうか。

企画財政部長：文化交流拠点施設につきましては、長い期間の中で幾度となく、検討しております。候補地につきましては、市内7か所の候補をあげさせていただき、何処が一番活性化に繋がるかということを検討させていただいた中で、高野山新田の水の館付近が最適であろうという結論をいただいております。その中で建設構想案をお示しさせていただいておりますので、ご意見として、受けさせていただきます。現時点では、建設するかしないかはまだ決まっております。

市長：場所につきましては、様々な専門家の視点で、我孫子に建設するのであれば、ここであると選定していただきました。民間が資本投下しやすい場所、集客力がある場所などいろんな視点の中での選定でした。こういったことをご理解いただき、議論をしていただければと思います。

市民：参考までにお聞きいたします。令和2年度の主な予定事業の項目で、防犯カメラの設置についてですが、主に我孫子市が中心なのか、警察が中心になっているのか、お聞きしたい。また、どのぐらいの補助がでるのでしょうか。

市民生活部長：防犯カメラ設置の補助金ですが、1台あたり工事費を40万円とみまして、限度額がその半分の20万円です。自治会さんが設置するのであれば、

残りの半分は自治会さんで負担していただく事になります。今、市では、子どもがいる施設を中心に、小中学校、保育園、幼稚園をはじめ、主要道路、駅前、市境に設置しています。20万円の根拠といたしましては、カメラを設置する支柱とカメラ代金で約40万円かかります。その2分の1を補助するという事です。設置場所を今ある街路灯に設置するとなれば、支柱代はかかりませんが、掛かった費用の半分以上を補助するという事になります。

市長：主体者は我孫子市です。ただし、警察と相談させていただきます。やはり犯罪の抑止力として設置するわけですから、犯罪を取り締まる警察の意見を聞いてですので、それ以外に設置する場合は、補助金の対象外になる場合もあります。

また、市といたしましては、犯罪が起きた場合の証拠となる映像が必要になることを前提に補助金も出しておりますので、安価なもので、映像が不鮮明のものは補助金対象から外れる場合もございますので、ご理解いただきたいと思います。

ご相談につきましては、市民安全課までご連絡ください。